



花の「香り」は、  
品種改良によって変えられる？



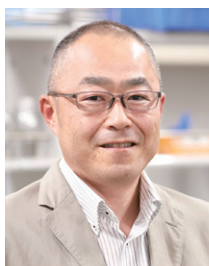
「香り」のメカニズムが  
解明できれば、  
新たな「香り」をもった植物も  
生み出せるはずですよ。

遺伝子組換えやゲノム編集など、  
さまざまな新技術で進化する品種改良。

たとえば、日本各地で人気を博す多様なブランド米。これらはたくさんの農業従事者が交配による品種改良を繰り返した成果です。さらに遺伝子組換え技術によって生まれた青いバラや、任意の遺伝子情報を改変するゲノム編集技術によって育成された糖度の高いトマト。人類はさまざまな試行錯誤によって、さまざまな新品種を生み出してきました。しかしそれは味や形、色に関してのこと。香りについてはこれまであまり着目されてきませんでした。その一方で、香りはヒトに対してさまざまな生理作用を与えることがわかっています。近年アロマオイルなど、暮らしに香りを取り入れるさまざまなアイテムも一般化してきています。そこで私の研究室では、植物の「香り」を改良する方法について検討しています。

まだまだ解明されていない部分が多い「香り」のメカニズム。

たとえば、香りAと香りBを発生している香料を調合するとまったく違う香りCが生まれるなど、「香り」にはまだまだ解明されていない不思議な謎がたくさんあります。また、植物内のどの物質や遺伝子が香りに関連しているのかも特定されていません。そこで私の研究室ではまずカモミールやラベンダーなどの植物を題材に遺伝子操作や交配による品種改良などを試しながら、糸口を探っています。花びらが大きく、精油の収量増加が期待できるカモミールや年に2回花をつけるラベンダーなど、新しい品種を生み出すことには成功しているものの「香り」の解明に関しては難航中。これから「香り」がヒトに与える影響や「香り」の仕組みなどについても調べながら、「香り」の解明を続けていきます。



津呂 正人 先生

Masato Tsuru

理科の勉強を進めるうち「自分の手で仕組みを解明したい」と思うようになり研究の道へ。研究では思うようにならないことも多いですが、「生物は一日にしてならず」という言葉を胸に、粘り強く取り組んでいます。

私の  
宝物



修学旅行で買った  
ラベンダーの匂い袋。

高校の修学旅行で訪れた北海道の土産屋で見つけました。当時読んでいた小説にラベンダーの香りの話が出てきて、どんな香りなのか気になって購入。香りに興味をもった原点ともいえる経験で、今でも大切に保管しています。